

# 家庭・福祉部会

共通研究主題 「生徒による授業評価を活用した評価と指導の在り方」

## <家庭分科会>

研究主題 「生活力を高める指導の在り方～一人一人の実践力をはぐくむために～」

### I 研究の目的

#### 1 昨年度の成果と課題

昨年度の「東京の教育21」開発委員会家庭部会では、生徒が衣食住や消費生活などに関する基本的な知識や技術を確実に身に付け、自立した生活ができるとともに、地域の生活にかかわり創造する力を、「生きる力」の育成とかかわって「生活力」と定義がなされた。しかし、生徒の実態や生徒を取り巻く環境の変化に注目しながら、生徒一人一人が確実に「生活力」を身に付けるため、「生徒による授業評価」と、「生徒による自己評価」を行いながら研究を進めていく中で、生活に生かす実践力の育成という点が課題として残された。

#### 2 本年度の研究の目的と研究の進め方

今年度は、上記の課題を受け、生徒一人一人の「生活力」を高めるために、学習で得たものを生活の中で実践しようとする態度の育成に取り組んだ。

また、生活の様々な場面で課題を見いだし、その解決を図りながら、家庭生活の充実向上を果たすことのできる態度を「実践力」と定義した。普通教科「家庭」の目標に示されている「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」ことから実践力の育成が「生活力」を高めるために必要であると考えた。

研究内容においては、昨年度開発した「生徒による授業評価」、及び「生徒による自己評価」の評価項目の改善を図った。

また、生徒に到達させたい目標（学習のねらい）を具体的に示し、生徒に身に付けさせたい基礎・基本を中心とした学習を行い、さらに、その学習を発展させ、生徒一人一人の生活に生かすための授業改善に取り組んだ。研究を進めるにあたり、生徒自身が学習のねらいにおける理解の程度を明確にすることが重要であり、そのためには、学習の前と後での学習のねらいに対しての到達度を知ることが必要であった。さらに、そこからわかる自分の生活への課題を解決できる力を身に付けさせるため、「生活力」を高める到達度評価の開発を中心に取り組んだ。

### II 研究の方法－実践力をはぐくむ評価の方法

#### 1 実践力を高める効果的な評価方法と評価項目の設定

本研究では、「生徒による授業評価」を授業計画の中に位置付け、授業の中で生徒の到達度評価を実施し、生徒一人一人の実践力の育成につなげるものとした。単元終了時に授業評価を行うだけでなく、授業での到達度を確認することで、生徒一人ひとりの理解度を把握し、授業改善に役立てた。

毎時間の授業で使用するワークシートについては、生徒の「生活力」の習得に加えて自らの生活に生かすことのできる実践力をはぐくむために、実生活の中で活用できる内容であったかどうか、興味・関心をもつことができたかどうか等についての評価項目を、授業終了時に記入することができるよう工夫・改善を行った。また、単元終了時に行う「生徒による授業評価」においては、昨年度開発した「効果的な評価方法と評価項目の設定例」を活用した。さらに、「生徒による授業評価」および、「生徒による自己評価」において、関連する質問項目(表1)の数値がどのように改善されているかについて着目した。

表 1 対応する質問項目

授業評価項目	自己評価項目
⑨ もっと深く勉強したい内容だった	⑥ もっと多くのことを学びたいと思った
⑩ 知りたいことが分かる授業だった	④ 授業内容がよく理解できた
⑪ ねらいが達成された授業だった	⑤ 授業の目標を達成できた
⑫ 生活力が身に付く授業だった	⑦ 学習したことを生活に生かそうと思った

表 2 授業評価の結果 ※○囲み数字は、今年度使用した評価項目のシートの数字

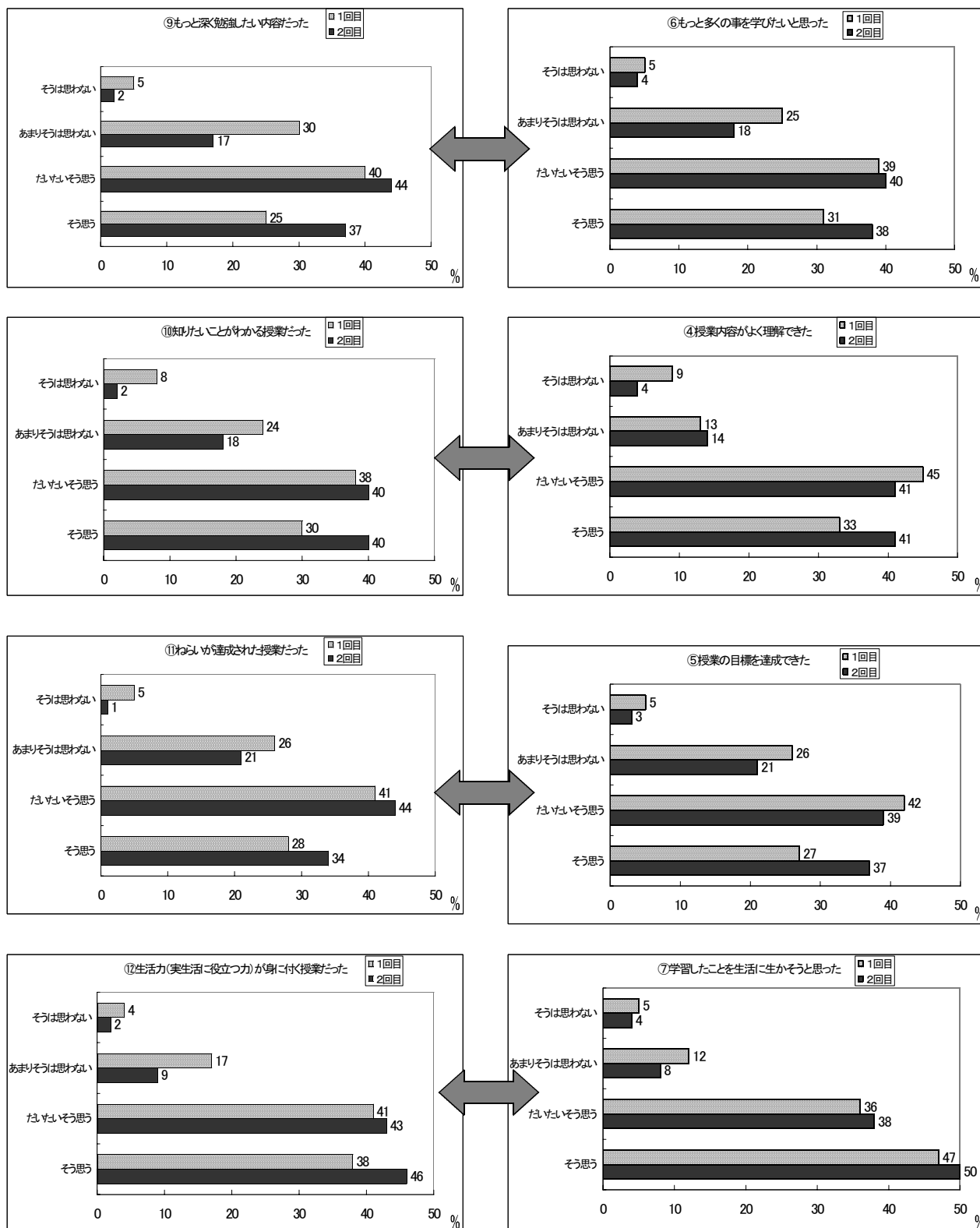


表2より、改善前(7月)の1回目に比べ、改善後(9月)の2回目は生徒のこれまでの学習を把握し、授業のねらいを明確にした結果、「授業評価項目」、「自己評価項目」ともに値が改善されていることが分かる。1回目の授業評価の際に、「あまりそう思わない」と回答した生徒について、2回目の結果を抽出した結果、約4割が「だいたいそう思う」又は「そう思う」と回答していることが分かった。このことから、授業の中で学習すべき事柄や目標を明確に示したことにより、生徒一人一人が意欲的に授業に取り組んだことが確認できた。また、本時における目標を明確化することにより、生徒が自ら習得すべき事柄を意識し、授業での質問等も多くなることが分かった。

## 2 ワークシートにおける観点別評価方法の工夫

今年度は、「生活力」を高めるために必要な実践力の育成をめざし、ワークシートの改善に取り組んだ。

それぞれの単元や、授業のはじめに、到達すべき目標や学習のねらい、キーワードを示し、確認できる項目をワークシートに取り入れた。これにより、教員だけでなく生徒自身も自己の到達度を把握することができ、今後の課題を見いだすことができた。

また、技術や経験の到達度だけでなくキーワードを活用し、学習への取組に対する興味・関心をもつことにより、生徒の実態がより把握でき、その単元の学習内容を工夫することができた。さらに、次のようなねらいから、ワークシートの中に観点別評価を取り入れた。

- ・学習におけるねらいを明確にする。
- ・学習における生徒の実現の状況を知る。
- ・目標に準拠した客観的な評価を行う。
- ・生徒一人一人に対して個に応じた指導を行う。

具体的には、後述する事例2で活用した「衣生活技術に関する Check シート」を以下に示す。①では玉結びや玉止めの方法を確認することを通して、衣生活技術に対する「意欲・関心・態度」の状況をみる観点である。また、玉結び、玉止めなどがどの程度できるかを確認し、自分の技術を把握することから「思考・判断」の状況をみる観点とした。②では語句や特徴の使い方が理解できることは知識としての基礎・基本を身に付けていると判断し「知識・理解」の状況をみる観点とした。

また、単元の最後に到達度評価を行うことにより、授業の到達度を生徒自身で知ることによって新たな課題が見いだされ、解決へとつながっていく。このような到達度評価を繰り返すことにより、能力、興味、関心、意欲などが高まり実践力が身に付くと考えられる。

〈事例2〉 衣生活技術に関する Check シート

— 製作に入る前に振り返ってみましょう —

**Check 1** 実践的な能力をチェックしてみよう! . . . ① . . . **意欲・関心・態度、思考・判断**

次の各項目をチェックしてみましょう。

4 . . . (自信をもって) できる	3 . . . (多分) だいたいできる
2 . . . (多分) できない	1 . . . できない

①玉結びができる	4・3・2・1
②玉止めができる	4・3・2・1
③手縫いで並縫いができる	4・3・2・1
・	
・	
⑩まち針を打つことができる	4・3・2・1

{語句} 下のそれぞれの語句の特徴や使い方を理解できたら、○をつけましょう . . . ② . . . **知識・理解**

手縫い 並縫い 玉結び 玉止め スナップ 直線縫い  
下糸 ボビン 上糸 返し縫い(ミシンでの)

### Ⅲ 研究の内容－指導計画と指導事例

#### 1 弁当作りを通して食生活における思考・判断を育む指導事例〔事例1〕

(1) 題材名 「家庭総合」食生活の科学と文化  
食事をつくる－食事計画と弁当献立－

(2) 題材目標

- ア 健康で安全な食生活を送るために、食事計画の重要性を理解する。
- イ 献立作成の手順を理解し、弁当作りの基本を踏まえ、食生活における実践力を身に付ける。
- ウ パソコンを活用した食事の栄養計算を通して、自己の食生活における課題に基づいた食事改善ができる。
- エ 献立作成に当たっては栄養所要量、食品の特性と調理、経済性、安全衛生、し好等に配慮する。

(3) 題材の指導計画（7時間）

指導内容	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
栄養計算 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の弁当の品目について実際に計量する。</li> <li>・品目ごとの栄養計算を行い、自分の弁当における栄養バランスを評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食の弁当について興味をもつことができる。</li> <li>・栄養計算を通して弁当の栄養バランスに関心をもつことができる。</li> <li>・栄養計算に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当の品目を食品別に分類することができる。</li> <li>・自己の食生活における課題に気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当を品目別に計量できる。</li> <li>・成分表を活用し栄養計算ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素の特徴を理解している。</li> <li>・栄養計算の方法を理解している。</li> <li>・食事計画の重要性を理解している。</li> </ul>
献立作成① パソコンを利用した栄養計算 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスのよい弁当の献立を考える(夏期課題)。</li> <li>・パソコンを用いて栄養計算をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当に興味をもたせる。</li> <li>・パソコンを利用しての栄養計算に興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスの良い献立を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立を作成することができる。</li> <li>・栄養計算ソフトをパソコンで操作できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当の献立の基本を理解する。</li> <li>・グラフを読み取り献立改善の方法を理解する。</li> </ul>
献立作成② (1時間) 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業から、高校生に適した弁当献立を考える。</li> <li>・弁当献立の基本をふまえてテーマに沿った弁当献立を作成する。</li> <li>・グループで各自の献立を話し合い実習する弁当を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で積極的に話し合いを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当に適した献立を考えることができる。</li> <li>・献立改善について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立改善と献立作成ができる。</li> <li>・グループで話し合い、献立改善した弁当について発表ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立作成と献立改善の方法を理解する。</li> <li>・弁当献立の基本を理解する。</li> <li>・弁当の調理に必要な調理法を理解する。</li> </ul>
実習準備 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立を確認する。</li> <li>・調理方法、調理時間、作業手順、作業分担を確認する。</li> <li>・材料、購入方法、予算を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理時間を考えた調理方法を選択することができる。</li> <li>・適切な作業計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な材料を選択し購入することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・衛生に配慮し短時間でできる調理法を理解している。</li> <li>・食品の購入のための選択方法を理解している。</li> </ul>
調理実習 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当献立の実習を行う。</li> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度を整え積極的に実習に取り組んでいる。</li> <li>・積極的に評価活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業能率を考慮することができる。</li> <li>・実習班の評価をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能率を考えた調理技術を身に付けている。</li> <li>・計画通りに作業できる。</li> <li>・自己の評価について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業内容を理解している。</li> <li>・評価に対する意義を理解している。</li> </ul>
まとめ 評価結果の発表 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習班ごとの意見交換と評価を行う。</li> <li>・他班の評価を行う。</li> <li>・全体を通して授業評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に意見交換に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的視点で相互評価を行い、改善点について具体的な解決方法を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の改善点を把握して、その対策について説明ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の結果について認知し、課題を理解できる。</li> </ul>

#### (4) 本時の指導目標

- ア 栄養バランスのとれた食生活を営むため、弁当の献立作成を通して食事計画の重要性を理解する。
- イ 食品の栄養的特質、栄養計算、献立作成を通して各自の食生活における問題点に気付かせ献立を改善する力を身につける
- ウ 弁当の計量、弁当調理の基本を理解すると共に、テーマを設定し献立の改善に生かすことができる。

#### (5) 本時の指導計画（1時間）

(評価規準の記号：○関心・意欲・態度、□思考・判断、◎技能・表現、▲知識・理解)

区分	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	・本時の学習内容と目標の説明	・前時までの内容を確認する。 ・本時の目標を理解する。	・本時の内容を理解させ、目標に対する意欲をもたせる。	・本時の目標を確認し、関心をもつ。(○)
展開 (30分)	・栄養計算ソフトを用いた弁当献立の評価 ・献立の改善と作成  ・弁当献立作成の基本 ・改善テーマの設定 ・調理実習する弁当献立の決定	・前回のデーターを基に栄養計算ソフトを用いてバランスのとれた献立を作成する。 ・自己の食生活における課題を把握し改善策を検討する。  ・各自の改善結果から班で実習をする弁当献立を決定する。 ・弁当献立における基本を踏まえ各班の改善テーマを決定し、調理法と調理手順を検討する。	・栄養バランスを改善するためにレーダーチャート、食品群別摂取量のめやすにより各栄養素の過不足を把握することができる。 ・改善に適する食品と献立例を考えさせる。 ・改善テーマに基づき使用する食品、調理方法、季節感などを考えさせる。	・データー入力の方法を理解し、結果を導くことができる。(◎▲) ・レーダーチャートや食品群別摂取量のめやすを読み取り、改善することができる。(□) ・弁当献立作成の基本が理解できる(▲) ・改善テーマをふまえ、栄養バランスのとれた献立を決定することができる。(□) ・班内で積極的に話し合いに参加している。(○▲)
まとめ (15分)	・発表 ・まとめ	・実習班ごとにテーマや改善点などを発表する ・授業評価を通して、本時のねらいに対する達成度を理解する。	・自己及び他者の弁当について評価させる(プリント)。 ・次回の授業について説明する。  ・授業評価用紙を配布し回収する。	・班の意見をまとめ、発表することができる。(□◎) ・自己、他者の弁当について評価ができる。 ・自己の食生活を見直すことができ、改善の方法を理解することができる。(□▲)

#### (6) まとめ

授業の最初に本時の目標とキーワードを示すことは、学習の導入において生徒の目的意識が高まり効果的であった。さらに、授業の最後に到達度評価を行うことにより生徒自身の課題だけでなく教員側の課題も認識でき、授業改善に取り組むことができた。

この「弁当作り」の授業では、自分の弁当を実際に計量することを通して、自分の食生活を振り返るとともに、食生活における課題を発見することができた。

また、献立を作成しバランスのとれたものにするために、パソコンを利用した。パソコンの活用を通して栄養計算だけでなく、食品の組み合わせの工夫や改善についても理解を深めることができた。

自己評価だけでなく相互評価を行ったことは、これまで気付かなかったことや自班の課題がより一層明確になり、改善テーマの設定を行うために大変効果的であった。

「生徒による授業評価」を行うことは生徒の学習のねらいに対する到達度を把握することができる。さらに、生徒一人一人が自己の生活に関する課題を発見し、それを解決していくための重要な手がかりとなる。これを繰り返すことにより「生活力の育成」ができた。

生徒の感想には以下のようなものがあつた。

- ・ もっと毎日の食事のことを見直していこうと思った。
- ・ 自分の食べている食品の栄養について詳しく知ることができた。
- ・ おいしそうな弁当だったが、データーを調べるとバランスが偏っていたということがわかった。
- ・ 具体的に何を改善すれば(補えば)よいかわかった。
- ・ 自分で家族の弁当を作ってみようと思った。
- ・ 母が毎日どんな時もお弁当を作ってくれているが栄養のバランスを考えるなどの作る側の大変さがよく分かったので感謝したい。



## 2 オリジナルデザインバッグの製作を通して衣生活に必要な技能・表現を高める指導事例 [事例2]

(1) 小単元名 「家庭総合」 生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化

### (2) 小単元の目標

被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させるとともに、衣生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようにする。

(3) 題材名 「メッセージをこめてオリジナルバッグを作ろう」ーリサイクル素材の活用を通してー

### (4) 題材の目標

- ・オリジナルデザインのバッグ製作を通して、衣生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。
- ・被服材料の特徴と被服管理の方法を学び、個々の製作主題を持ち、主体的に製作活動を行うことができる。
- ・生徒が互いの技術や技能を補い、認め合う大切さを理解し、相互評価を通してものづくりの楽しさを味わう。

### (5) 題材の指導計画 (14時間)

題材	学習活動	評価の観点			
		意欲・関心・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
製作に入1する時間前間に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文した内容の確認</li> <li>・バッグの特徴、生地加工や特性について理解する。</li> <li>・小学校・中学校での被服製作を思い出す。</li> <li>・製作における自己評価、授業評価の仕方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する生地等の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去を振り返り、被服製作にどのように取り組んできたのか、考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の被服製作についての自己評価を試みる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3バッグの特徴、使用する生地の特徴や施せる加工について理解する。</li> </ul>
イをメ作るじょうを形にし2オ時り間ジナ本ル時製作表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の縫製に関する技術の実践力をVTR視聴と過去の振り返りでチェックする。</li> <li>・バッグの製作工程について考える。VTR視聴でおおまかな作り方を学ぶ。</li> <li>・用語の意味を理解する。</li> <li>・自分の作りたいバッグをイメージする。</li> <li>・身に付けなければならない基礎的な縫製技術を繰り返し行いながら作品ができるよう、バッグ製作表を作成する。</li> <li>・様々な被服材料の特徴や管理の方法を理解し、自分に必要なものを選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫製に関する実践力を意欲的にチェックしている。</li> <li>・バッグの製作工程についてグループで積極的に話し合っている。</li> <li>・用語をチェックしている。</li> <li>・自分の作りたいバッグについて考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縫製に関する自分の課題を見つけている。</li> <li>・バッグの製作工程について具体的に考えている。</li> <li>・バッグの製作工程に装飾と機能を加える自分のオリジナルアレンジを具体的に考えている。</li> <li>・自分のバッグの管理方法を具体的に考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作るバッグのイメージを他者にわかるように表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の縫製に関する技術力の確認をし、課題となるところを理解している。</li> <li>・バッグのおおまかな製作工程を理解している。</li> <li>・用語を理解している。</li> </ul>
製作10し時よ間う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作のために努力や工夫をする。</li> <li>・基礎縫いやミシンの扱い方など、課題である技術を習得する。</li> <li>・製作工程表に基づいて実施した内容を毎授業終了時に記入し、自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に製作している。</li> <li>・自己評価を次の授業に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにすればよりよく製作ができるかを考えながら製作を進める工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、被服の製作ができる。</li> <li>・製作に必要な技能が身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、用語の理解を深める。</li> </ul>
作品1発時表間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通しての自己評価を行う。</li> <li>・作品を相互に評価しあう。</li> <li>・全体を通しての授業評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に発表会に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的視点で自己評価、相互評価を具体的にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を工夫して発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、相互評価を理解している。</li> </ul>

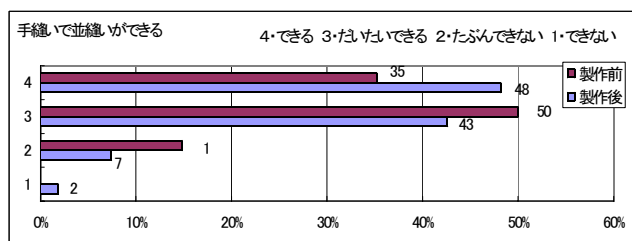
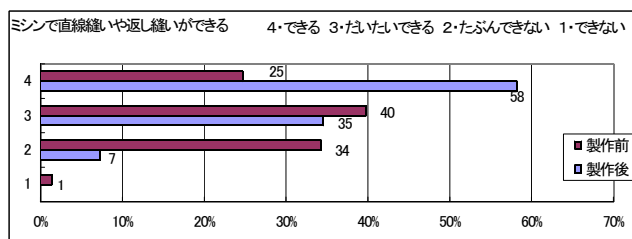
### (6) 本時の指導目標

- ア 小・中学校の被服製作を振り返りながら、自己の縫製技術における実践力を把握し、課題を明確にする。
- イ 日常よく使用する生活小物を観察することを通して、被服の構成や製作工程を考える。
- ウ 洋裁用具、被服材料の扱い方を理解し、自己の主題に適する被服材料を選択することができる。
- エ 被服材料の特徴を理解し、適切な被服管理の方法を工夫し、実践することができる。
- オ 自己作成した製作表に関する毎時の自己評価について自己評価能力を高め、次時の製作に生かすことができる。

## (7) 本時の指導計画

区分	指導内容	学習内容	指導上の留意点	評価規準 (○関心・意欲・態度、□思考・判断、◎技能・表現、▲知識・理解)
導入 10分	・前時の内容確認 ・本時の目標について説明	・3バグの適した用途を思い出す。 ・縫製技術の課題を理解する。 ・製作したいオリジナルバグを図で表す。 ・製作工程を理解し、時間配分を加えた製作表を作る。	・3バグの適した用途を具体的な例で説明 ・実践力の課題に気づくこと。 ・製作工程を理解すること。 ・装飾や機能を加えるアレンジを盛り込むこと。	・前時の内容を把握している (□・▲) ・本時の目標を確認する (○・□)
展開 90分	・縫製実践力チェック ・バグの製作工程について ・装飾を中心としたアレンジ材料について ・色彩について ・完成イメージ図の記入、製作表の作成 ・他者の作品を紹介	・衣生活実践力チェックシートと視聴覚で自己の縫製技術の到達度を理解する。 ・バグ製作の工程を考える。 ・装飾を中心としたアレンジ材料について理解する。 ・手入れの方法を理解する。 ・効果的な配色の仕方を考える。 ・記入方法を説明する。 ・他者と製作表をチェックし合う。	・チェックができるよう、専門用語の説明も加えていく。 ・数人で考えさせた後、視聴覚で確認をする。 ・視聴覚でアレンジの材料使用例を視聴する。それぞれの手入れ方法も説明する。 ・色の見え方を例示する。 ・机間巡視してまわり、アドバイスする。 ・他者作品も参考にさせる。	・意欲的に実践力チェックをしている (○・□) ・専門用語の理解ができている。(▲) ・グループでバグの製作工程を話し合っている。(○・□・▲) ・装飾や機能を加えるアレンジ方法や材料について理解ができている (○・▲) ・イメージ図を記入している (○・□・◎) ・製作表を記入している (○・□・◎)
まとめ 10分	・授業評価、自己評価を指示	・授業評価、自己評価をする。 ・本時の確認と次回の予告	・次回からの製作内容を具体的に確認、理解させる。	・授業評価、自己評価している (○・□・◎・▲)

## (8) まとめ



左のグラフから分かるように、製作に入る前と後では「できる」と感じている生徒の人数にかなり差がある。実際の製作で「できない」が「できる」に変わり、到達度を上げたと思われる。しかし、知識・理解を図る到達度項目と違い、製作などの技術的習得を図る内容の場合、自分では「できる」と思っていることが、実際には「できない」ことだった生徒も中にはおり、ワークシートのみで到達度を図ることは難しいと思われる。また、「できる」と「できない」についての生徒一人一人の基準がそろわないということも製作後の

到達度を図る上での課題となった。このワークシートの項目に、本人の試技が加えられると、もう少し正確な到達度を図ることができたと思われる。

また、実際の製作を終えて、身に付けた技術を自分の生活にどのように生かそうと考えるのか、という問いには、自分でできる内容を挙げ、それをどのような生活場面で具体的に生かそうと考えているのかについての記述が増え、積極的に自己の生活に生かそうと考えている生徒が増えた。生活に生かすための実践力育成には、確実な技術の修得が必要であり、基礎・基本を重点としたことは効果があったと思われる。

### 3 電腦商店街を活用した生活情報への関心・意欲・態度を育む指導事例 [事例3]

(1) 本時の題材名 「家庭総合」消費生活と資源・環境  
消費生活と意志決定について～生活情報の活用方法

(2) 本時の指導目標

- ア 多様化する販売方法・支払い方法について理解を深め、社会全体の消費行動について関心をもつ。
- イ 生活情報の収集・選択と活用方法を身に付ける。
- ウ 消費者にとって、適切な意志決定を行うことが重要であることを理解する。
- エ インターネットを用い、氾濫する情報の中から目的にあった生活情報を取捨選択する能力を身に付ける。

(3) 本時の指導計画

(評価規準の記号：○関心・意欲・態度、□思考・判断、◎技能・表現、▲知識・理解)

区分	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 (5分)	・本時の学習内容と目標の説明	・前時までの内容を確認する。 ・本時の目標を理解する。	・本時の内容を理解させ、目標に対する意欲をもたせる。	・本時の目標を確認し、関心をもつ。(○)
展開 (45分)	・販売形態について	・自分がいろいろな商品を購入するとき、どのような販売先から入手するか、ワークシートを用いて考える。 ・それぞれの販売形態は、店舗販売と無店舗販売に分けられることを伝え、その違いについて考える。	・普段の生活の中にも多様な販売形態があることを知る。 ・販売方法によっては様々なトラブルが生じることを理解し、無店舗販売による苦情が多くなっている現状を知る。	・販売方法の種類を理解することができる。(▲) ・トラブルの事例に関心をもつことができる。(○) ・販売方法を取捨選択できる。(□)
	・支払い形態について ・改善テーマの設定	・近年多様化する支払い方法を知り、現金以外の支払い方法について学ぶ。 ・日常生活の中で必要な情報をどのような方法で入手しているか、具体的な情報の対象を挙げながら考える。	・新しいタイプの支払い方法を紹介し、その利点と問題点について考えさせる。 ・具体的な情報源を生徒に発表させる。	・利点と問題点を整理し、自分の問題点を発表することができる。(□◎) ・支払い方法の種類を知る。(▲) ・普段の生活の中で、いろいろな情報を取捨選択しながら生活していることに気付くことができる。(○)
	・インターネットについて	・コンピューターを利用した生活情報の入手の仕方、またその問題点について理解する。	・インターネットの普及により、我々の生活が便利になった反面、様々なトラブルも発生していることを認識させる。 ・情報化社会におけるプライバシー保護の重要性について理解する。	・インターネットについて知識を広げる。(▲) ・インターネットのトラブルに対処する方法を理解することができる。(▲)
(35分)	・インターネットの利用 ～電腦商店街ネット社会の歩き方～	・コンピュータールームを利用し、実際にインターネットによるショッピングを体験させる。 ・ワークシートを利用し、それぞれの商店を評価してみる。	・実際にインターネットを利用し、情報の入手の仕方、購入の判断基準、使用上の注意などについて理解させる。 ・商店の問題となる部分について考えさせる。	・インターネットを利用することができる。(▲◎) ・問題点について意見をまとめることができる。
まとめ (15分)	・必要な情報を正しく入手するには	・情報のあふれる社会において、情報を見極め、正しく活用するには何が必要なのかを考える。 ・授業評価をする。	・インターネットショッピングを利用してみて感じたことについて発表させる。	・生活情報の活用方法について理解させる。(▲) ・実生活に活かそうと考えている。(□)

(4) まとめ

近年、現金以外の支払い方法の利用が増加するとともに、インターネット等の普及により商品の購入方法や情報の入手も多様化してきている。生徒が自らの生活にそれらを活用してみようとする時、どのようなことに注意をすればよいのか、自分の生活に取り入れるとしたらどのような場面が考えられるかなど、生活情報の活用方法に興味・関心をもたさせ、様々な情報を取捨選択する能力を育むことが重要であると考えられる。

授業の中で生徒自身が授業に対する到達度を評価することは、自らの学習活動への意欲を高めることにつながり、また教員が生徒一人一人の到達度を分析することを通して、授業改善に役立つことがわかった。



#### 4 環境に配慮した消費行動を通して知識・理解を高める指導事例 【事例4】

(1) 本時の題材名 「家庭総合」 消費生活と環境・資源 —未来の生活のために—

(2) 本時の題材目標

ア 消費行動が環境に与える影響を考え、消費生活と資源や環境の関係を理解する。

イ 社会全体が循環型社会を目指していることに気づかせ、環境負荷の少ない生活や環境に調和した生活を工夫する態度を養う。

ウ 消費生活の具体的な事例を通して、ワークショップ学習活動を行い、環境保全の実践力を育成する。

(3) 本時の指導計画 2時間

(評価規準の記号：○関心・意欲・態度、□思考・判断、◎技能・表現、▲知識・理解)

区分	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入 5分	・本時の学習内容と目標の説明  ・生活環境と資源・環境の関わりについて	・本時の内容を理解する。 ・循環型社会の中で「廃棄」が環境に与える重要性に気付く。 ・携帯電話を例として、ゴミ問題を考える。また、携帯電話は稀少金属を使用した製品であることに気づき、資源の活用と消費行動の関係について考える。	・本時の内容を認識し、自分の生活と消費行動を振り返らせる。 ・本時の学習内容について興味・関心をもたせる。	・本時の目標を認識し学習内容に興味を持つ。(○)  ・資源の再利用とゴミの関係がわかる。(□)
展開 35分	・消費行動と環境問題(循環型消費生活とは)	・循環型社会形成推進基本法が施行された背景を考えさせ、特に包装容器リサイクル法など私たちの生活の関係を具体的に挙げる。 ・環境ラベルの学習を通して、生活における再資源、再利用化について考える。 ・自分の生活を振り返り、*グリーンコンシューマーとしての態度を養う。	・消費行動と環境の関わりや循環型社会の仕組みを考えさせる。 ・自分のライフスタイルを見直さなければならないことに気付かせる。 ・身近な生活の中の環境ラベルを見分ける力を養う。 ・環境負荷の少ない生活を目指した消費行動を考えさせる。	・社会全体が循環型社会を目指していることが分かる。(▲) ・グリーンコンシューマーとしての態度を養う。(○) ・環境負荷が少ない商品を選択できる。(◎)
40分	・ワークショップ 買い物ゲーム	・カレーを作るという設定に対し各班で疑似買い物体験をする。 ①食材の模型についている値段を計算し、安さを各班で競う。 ②各食材の包装容器の廃棄処理にかかる値段を明かし、廃棄値段も含めた値段を再度計算させる。	・班で協力させ、学習した知識を積極的に活用させ取り組ませる。 ・具体的に環境負荷を理解させ、環境負荷の少ない生活を担う必要性を認識させる。	・前時の学習を生かし環境負荷が少ない商品を判断できる。(□) ・環境負荷の少ない生活に積極的に取り組もうとしている。(○)
まとめ 10分	・自分の生活で実行できることについてまとめる。	・各班で自分たちができる事についてまとめる。各班で発表する。 ・他の人の意見を参考にして自分が実践できる項目を選ぶ。 ・授業評価を通して本時のねらいの到達度を知る。	・環境負荷の少ない行動について考えさせる。 ・自分の行動を振り返り、実践する態度を養う。	・自分の言葉で課題を表現できる。(◎) ・他人の意見の記録が取れる。(◎) ・環境問題についてさらに学ぶ意欲がある。(○)

\*グリーンコンシューマー・・・環境保全への配慮からより環境に対する負荷(リスク)の少ない買い物をする人々のこと。

(4) まとめ

最初にキーワードを確認することにより、より具体的に本時のねらいを認識させることができた。授業についての明確な目標を生徒に持たせ、評価の観点を示すことで、生徒一人一人の到達度に対する意識を高めることができた。また、実践的なワークショップによる活動を通じて、環境保全に対する意識を向上させ、生徒自身の生活の中での実践力の育成を図った。この学習を通して、循環型社会にむけて社会全体の取組についての理解をより深めることができた。さらに本時においては高校生の生活の実態に即した視点を持ち、興味・関心を高める問題を取り上げた。

授業の最後に、生徒はそれぞれ意見を発表し合い、相互に高め合う気づきの場となった。この様に、問題を解決する学習活動が実践力を高めることに、より効果的であることが分かった。



## ＜福祉分科会＞

### 研究主題 「共生社会を創造する福祉教育のあり方」

#### I 研究の目的

##### 1 はじめに

新学習指導要領の実施に伴い、新教科「福祉」が設置された。そこで、本年度は家庭・福祉部会として福祉分科会を位置付けた。

これまでも学習指導要領における福祉にかかわる教育は、教科「家庭」における「家庭看護・福祉」「保育」「児童福祉」等の科目を中心に扱われ、また福祉に関する学校設定教科・科目や体験的な学習活動を通して行われてきた。今年度は基礎研究として、教科「福祉」、教科「家庭」、福祉教育に関する学校設定教科における学習内容を整理検討し、福祉教育に共通した考え方を示すことを目的とした。さらに、福祉教育において実施している体験的な学習の在り方についても研究を行うこととした。

##### 2 主題設定の理由

社会福祉は、生涯にわたってすべての人々にかかわるものである。そのため、現代の多様化した社会のニーズに対応し、一人一人が充実した人生を送るために、福祉の質を向上させることが求められている。また、社会全体においては、少子高齢化やライフスタイルの多様化などが進む中で、自立と共助の精神に基づく人と人との新しい関係を構築することが必要である。そこで、高等学校における福祉教育を通して身に付けさせたい力は、福祉についての基礎・基本を学び、福祉を利用する立場や福祉を担う立場、そしてそれらを取りまく家族や地域社会について、それぞれの立場になって考えることができる思いやりの心を育てることが大切であると考えた。

また、思いやりの心を育てることは、相手の気持ちを受容し、相互理解を円滑に行う基礎・基本になるものである。さらに、これからの少子高齢社会を迎える我が国の家庭生活においては、社会福祉を支える知識や技術の習得が重要であり、将来の福祉関連業務に従事する者の育成にとってはかかせないものである。本研究では、これからの共生社会を創造する福祉教育において、福祉に関わる教科・科目における体験的な学習も含めて、社会福祉と積極的に関わろうとする意欲とともに、自己の進路について考えさせることが必要であると考え主題を設定した。

#### II 研究の方法

##### 1 教科「福祉」における福祉教育

新学習指導要領に設置された教科「福祉」は、教科の目標を達成するとともに、職業資格取得との関連を考慮し、「社会福祉基礎」「社会福祉制度」「社会福祉援助技術」「基礎介護」「社会福祉実習」「社会福祉演習」「福祉情報処理」の7科目で構成されている。

また、内容の取扱いにおいては、「福祉に関する各学科においては、原則として福祉に関する科目に配当する総授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当することとし、地域や福祉施設、産業界などとの連携を図り、就業体験を積極的に取り入れるとともに社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること」とされている。特に、実験・実習においては独立したものとして実施するのではなく年間授業計画に基づいて、事前指導から実施、事後指導を計画的に行い、学習を深めるように配慮する必要がある。さらに、他教科の福祉に関わる領域や福祉に関わる学校設定教科・科目との関連と、教科「福祉」における各科目の領域や科目内容の関連も含めた年間授業計画を立てることが必要である。本研究においては、福祉に関する学科だけでなく、他の学科においても福祉の基礎学習を担う「社会福祉基礎」の指導方法や評価規準と目標に準拠した評価などの考察を行った。

「社会福祉基礎」において生徒に身に付けさせたい力は次のようなことが挙げられる。

- (1) 社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的・体験的に習得する。
- (2) 社会福祉の理念と意義を理解する。
- (3) 社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を身に付ける。



## 2 教科「家庭」における福祉教育

普通教育「家庭」における目標は、「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」ことである。ここでは、「生きる力」の育成をはじめ、男女共同参画社会の推進や少子高齢化等への適切な対応が重視されており、家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で総合的にとらえることが大切である。福祉教育に関連する領域としては、「家庭基礎」及び「生活技術」においては、内容として「人の一生と家族・福祉」が示され、「家庭総合」においては「子どもの発達と保育・福祉」「高齢者の生活と福祉」が示されている。

専門教育「家庭」における目標は、「家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、家庭の各分野に関する諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことである。専門科目において福祉教育に関する内容を扱うものは「生活産業基礎」「発達と保育」「家庭看護・福祉」「課題研究」である。そこで、今年度は専門科目「家庭看護・福祉」について研究を行うこととした。「家庭看護・福祉」における目標は、「病気の予防と家庭看護、高齢者の介護などに関する知識と技術を習得させ、家族や高齢者の健康管理とともに、家庭看護や高齢者介護の充実を図る能力と態度を育てる」ことである。「家庭看護・福祉」において生徒に身に付けさせたい力は次のようなことが挙げられる。

- (1) 高齢社会の特徴や現状を把握し、高齢者福祉の法律と制度や社会福祉に関する様々なサービスについて理解することができる。
- (2) 高齢期の健康と家族の健康管理に関する基礎的な家庭看護・介護の知識と技術を習得する。
- (3) 家庭看護や高齢者介護に関する諸課題を主体的に解決し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

## 3 学校設定教科における福祉教育 A 高等学校の事例

「学校設定教科」及び「学校設定科目」については、学習指導要領に次のように記されている。「学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学校の特色に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、上記2及び3の表に掲げる教科以外の普通教育または専門教育に関する教科及び当該教科に関する科目を設けることができる（「学校設定教科」）。上記2及び3の表に掲げる教科について、これらに属する科目以外の科目を設けることができる（「学校設定科目」）。」

このように「学校設定教科」・「学校設定科目」は「地域、学校及び生徒の実態、学校の特色に応じ」さらに「福祉の多様なニーズや地域の実態に対応し、新しい分野の教育を積極的に展開する必要がある場合など、「学校設定科目」を設けることにより、特色ある教育課程を編成することができる（学習指導要領解説福祉編）。」とあり、各学校によりその設置の状況は異なる。

A高等学校はそれまで「課題を抱える生徒が多いことから様々な問題行動がみられ、卒業までに約半数の生徒が中途退学する実態が数年続き、加えて、卒業時の進路未決定者が60%近くある。」という課題を解決するために「入試の改革」や「特色ある教育課程の編成」に取り組んだ。そこで、「現代社会を取り巻く、さまざまな福祉に関する基礎的な知識を習得させ、時代に対応した福祉社会に参加できる力と能力を育成する。」という目標に基づき、平成12年度より学校設定科目「福祉基礎」を設置した。

設置の背景としては、高齢化、少子化、核家族化といった社会の変化に伴い福祉の役割は重要になっており、これからの福祉の在り方を生徒一人一人が自分に関わることとして受けとめ、社会の一員として取り組むことのできる態度を身に付けさせることが挙げられる。また、学習内容については、私たちの暮らしに関わる福祉についての基礎的・基本的な意義を学習するとともに、学校設定教科として特色ある学習内容と指導に取り組むことが挙げられる。さらに、高齢者を多く抱えた地域性、特別支援教育の学校経験をもつ教員が多数いたことなども設置に適する条件であった。

「福祉基礎」の成果としては、福祉に関する学習や職業などに対する目的をもって学校生活に取り組んでいる生徒が増えたことである。しかし、「学校設定教科・科目」を設置した当時と比べ、生徒の実態も大きく変化しており、今後は生徒の学習要求に応じた指導内容の再構成が必要である。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 教科「福祉」における福祉教育

##### (1) ア 教科「福祉」の目標

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

##### イ 科目「社会福祉基礎」の目標

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

##### (2) 「社会福祉基礎」の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会福祉基礎	社会福祉に対する関心をもち、福祉社会に向けた課題に意欲的に取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や社会福祉の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	日常生活から派生する社会福祉に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、社会福祉の意義や役割について適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	社会福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習・調査・研究等で考察した過程や結果を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	現代社会における社会構造の変容や特色について把握し、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の理念について、その意義や役割を理解している。

##### (3) 単元名 「高齢者福祉の現状と課題」

##### (4) 単元目標

高齢者福祉の理念や目的、社会福祉サービスの体系や具体的内容、関連する介護保険制度などの意義や内容について、具体的な施策や統計資料などを取り上げ、共生社会を創造する福祉教育の在り方について理解を深める。

##### (5) 単元「高齢者福祉の現状と課題」の指導計画（全10時間・本時は5～6限目）

指導内容	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
高齢者福祉の現状・高齢者の身体的特徴・ワンポイント手話（2時間）	・高齢者福祉の理念や社会的背景を理解する。 ・高齢者の身体的特徴を知る。 ・介護食の種類や食事介助の方法を知る。	・我が国の高齢者福祉の理念・背景・現状に関心をもつことができる。 ・高齢者の身体的特徴から介護のあり方を考えることができる。	・高齢者福祉の立場から介護のあり方について考えることができる。 ・高齢者福祉の課題について考えることができる。	・高齢者福祉に関する将来統計や資料の読み取りができる。 ・介護食や誤えんを防ぐ食事介助の方法を身に付けることができる。	・高齢者関係施策の概要と現状について説明することができる。 ・誤えんのメカニズムなど高齢者の身体的特徴について説明ができる。
ベッドメイキング・車いす介助・ワンポイント手話（2時間）	・高齢者福祉施設訪問の際の学習内容から介護に関わる基本的な技術について理解する。	・介護に関わる基礎的、基本的な態度や技術について関心をもつことができる。	・ベッド上の生活空間のあり方について考えることができる。 ・車いすでの安全な移動方法について考えることができる。	・ベッド上に人がいる場合とない場合のシーツ交換の違いを理解することができる。 ・車いすの各部の名称や安全な操作方法が理解できる。	・介護従事者にとって無理がなく、高齢者にとっては快適な介護技術や態度について理解することができる。
高齢者福祉施設指先の動きを促すカード製作・ワンポイント手話（2時間・本時）	・介護保険の内容について再確認する。 ・指先の動きを促すカード製作から半身まひなどの身体的特徴と、援助の方法を理解する。	・介護保険について関心をもつことができる。 ・半身まひなどの要介護者への援助方法について関心をもつことができる。	・地域における介護保険の現状を知り、高齢者福祉を身近なものとしてとらえることができる。 ・高齢者の身体的特徴にあわせた介護方法や自助具の活用などが理解できる。	・高齢者との交流活動を意識しながら、カード製作を通じての身体援助の対応方法について具体的に行動できる。	・在宅介護の3本柱がいえる。 ・介護保険に伴う施設福祉の種類が理解できる。 ・高齢者の身体的特徴への理解を深めることができる。
高齢者福祉施設訪問（2時間）	・高齢者福祉施設訪問を通じ現状を理解する。	・高齢者福祉施設の現状と課題について関心をもつことができる。 ・具体的な介護のあり方について意欲をもつことができる。	・授業で学習した内容が施設訪問で活かせるよう考えることができる。 ・安全な援助方法について考えることができる。	・高齢者とともにカード作りをすることで一人一人に応じた援助の実際を考えることができる。	・介護体験などを通じ高齢者の心身の特徴を理解することができる。 ・プライバシーへの配慮について考えることができる。
高齢者福祉施設訪問のまとめ・ワンポイント手話（2時間）	・高齢者福祉施設訪問のまとめと交流活動の現状について理解する。	・高齢者福祉施設の実情と課題について関心をもつことができる。	・介護保険に伴う在宅介護・施設介護の特徴について利用者の立場から考えることができる。	・交流活動の工夫と発展について考えることができる。	・交流活動を通じ、高齢者福祉がより身近なものとしてとらえ、高齢者福祉の課題について理解する。



(6) 題材名

「高齢者福祉施設の現状と指先の動きを促すカード製作」

(7) 本時の指導目標

- ア 高齢者福祉の現状を知るとともに、介護支援に関わる施設等の社会的役割について理解を深める。
- イ 高齢者の身体的特徴に対する理解を深め、指先の動きを促すカード製作の方法について学習する。
- ウ ワンポイント手話を通じ手話検定に対応する知識や技術を身に付ける。

(8) 本時の指導計画

( 評価基準の記号：○関心・意欲・態度 □思考・判断 ◎技能・表現 ▲知識・理解)

区分	指導内容	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	・ 本時の学習内容と目標の説明	・ 本時の内容を理解する。	・ 本時の内容を確認させ、本時の学習目標をもたせる。 ・ 次時における施設訪問をふまえて説明する。	・ 本時の目標を確認する。(○)
展開 45分	・ 高齢者福祉の施策	・ 高齢者福祉施策の内容について再確認する。 ・ 大田区の介護保険に伴う在宅サービスの内容を知る。 ・ 在宅介護の3本柱の内容を知る。 ・ 家庭で利用できるサービスの種類や費用を知る。 ・ 日常生活の負担を軽減するサービスについて知る。 ・ その他の在宅サービスについて知る。	・ 『暮らしのガイド』(編集・発行大田区)でさらに理解を深めさせる。 ・ 大田区の現状を知ることにより、身近なこととして理解させる。 ・ 訪問介護(ホームヘルプサービス)・通所介護(デイサービス)・短期入所介護(ショートステイサービス)を理解させる。	・ 介護保険に伴う在宅サービスについて理解が深められる。(▲) ・ 在宅介護の3本柱が理解できる。(▲) ・ 介護保険におけるサービスの種類や利用の際の費用の仕組みが理解できる。(□▲) ・ 介護保険についてより身近なこととして理解が深められる。(○□▲)
	・ 高齢者の施設サービスの種類と相談機関	・ 高齢者の施設についてその内容や費用について知る。 ・ 老人ホームの種類を知る。 ・ 高齢者福祉の課題について考える。	・ 「平成16年度 みんなの介護保険」(大田区)を活用し理解を深めさせる。 ・ 大田区の現状を知ることにより、身近なこととして理解させる。	・ 介護保険に伴う施設の種類を理解できる。(○□▲) ・ 老人ホームの種類が理解できる。(○□▲) ・ 高齢者福祉の課題について身近なこととして考えを深めることができる。(○□▲)
展開 40分	・ 高齢者の身体的特徴からはさみを使った作業への展開	・ 片まひがあった場合はさみ使用の方法を考える。 ・ 日常生活での配慮事項を再確認する。 ・ プレゼントカードの製作方法を知る。	・ 高齢者通所施設訪問に備えて、高齢者の身体的特徴を理解する。 ・ 右半身のまひ・左半身のまひにおける違いを理解させる。 ・ 手指の動きを考えながら高齢者と共に行う製作を念頭におき作製させる。	・ 紙折り・紙切りの体験を通じ片まひに対する理解と援助の方法について考えを深めることができる。(○□◎▲) ・ プレゼントカードの製作から高齢者の個々の身体的特徴を考えた援助方法について考えが深めることができる。(○□◎▲)
	・ ワンポイント手話	・ 指文字しりとりで指文字を理解する。	・ 手話単語・指文字の読み取りを加える。	・ 手話検定に向け理解を深めることができる。(◎▲)
まとめ 10分	・ まとめ	・ 本時の内容について理解できたかどうか整理する。 ・ 次時の内容、持ち物などについて確認する。 ・ 福祉ウオッチングの提出をする。 ・ 本時の授業評価について自習の福祉ウオッチングに記入する。	・ 理解力を確認するために発問を行う。 ・ 次時の準備について確認させる。 ・ 福祉ウオッチングを回収する。 ・ 授業評価を念頭に置き次時の福祉ウオッチングの記入提出と回収を伝える。	・ 作品をしっかり仕上げることができる。(○◎) ・ 次時提出の福祉ウオッチングにおいて授業の記録をきちんとまとめることができる。(○◎▲) ・ 本時提出用の福祉ウオッチングについて意欲を持ってまとめることができる。(○◎▲)

(9) まとめ

「高齢者福祉の現状と課題」の単元では、高齢者への理解を図るための様々なアプローチを行い、思考を深める内容を心がけた。近年における核家族の増加により、身近に高齢者とかかわる環境が少ない生徒も多い。そこで、本校では近隣の介護老人福祉施設内のデイサービスセンターにおける交流学习を念頭においた単元を設定した。片まひを想定したカード作りの体験は、実際の交流時の留意点や援助の方法などを模索するための導入として実施することにより、体験的な学習が単なるカード製作として独立したものでなく、介護者の視点でとらえるよう配慮している。生徒は、片手での作業に苦戦しながらも、自力のできる部分と援助が必要な部分を身をもって体験し、理解を深めていく姿が見られた。

## 2 教科「家庭」(専門)における福祉教育

### (1) ア 教科「家庭」(専門)の目標

家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、家庭の各分野に関する諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

### イ 科目「家庭看護・福祉」の目標

病気の予防と家庭看護、高齢者の介護などに関する知識と技術を習得させ、家族や高齢者の健康管理とともに、家庭看護や高齢者介護の充実を図る能力と態度を育てる。

### (2) 科目「家庭看護・福祉」の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
病気の予防と家庭看護、高齢者の介護などに関心をもち、家庭看護や高齢者介護の充実を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭看護や高齢者介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用して創意工夫する能力を身に付けている。	家庭看護、高齢者介護などに関する基礎的な技術を身に付け、家庭看護や介護の実習等を計画し実践するとともに、その成果を的確に表現する。	病気の予防と家庭看護、高齢者の介護などに関する知識を身に付け、家族の健康管理や家庭看護、介護の意義と役割を理解している。

### (3) 科目「家庭看護・福祉」の年間授業計画 <概要>

時期	項目	単元	単元のねらい	学習内容	時間	学習形態	観 点 別 評 価				評価方法
							関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
4月	健康と病気の	福祉とは	福祉とは何かを整理し福祉の意味について理解する。	・福祉に関連する用語をカードに記入し、内容を分類させる。	6時間	グループ学習 講義	・カードの分類に意欲的に参加している。	・福祉の意義を理解している。	・自分の考えを記入し表で表すことができる。	・福祉とは何か理解している。	記入カード、学習プリント
5月		高齢者を知る	高齢期の変化について体験的に理解する。施設実習1(特別養護老人ホーム、デイサービスセンター)	・高齢者について知る。 ・高齢者疑似体験用具を用いて心身の変化について理解する。 ・施設での高齢者の現状を知る。	16時間	講義 演習 実習	・高齢者の特徴について関心をもてることができる。 ・高齢者疑似体験に取り組むことができる。	・高齢者の心身の変化を理解し、施設を通じた高齢者支援を考へることができる。	・演習の目的を理解し発表することができる。 ・施設での介護の役割をこころに記すことができる。	・介助の自立支援を理解している。 ・施設での福祉の現状を理解している。	プリントワークシート、実習日誌、レポート、パワーポイント
6月		家庭看護と介護技術の学び	高齢者の健康と介護の方法について理解する。施設実習2(特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等)	・高齢者の健康と介護の方法について理解する。 ・予防方法及び看護の基本的な技術を体験的に学ぶ。	20時間	講義 演習 実習	・老化と生活習慣病の関係について深く理解することができる。 ・介護技術の習得に取り組むことができる。	・高齢者の生活課題を深く理解し、適切な対応を考へることができる。 ・介護の環境を整えることができる。	・高齢者への健康予防について必要となる介護技術が身につくことができる。 ・演習での適切な援助ができる。	・高齢期の健康観を理解できる。 ・要介護者の状況に合わせた自立支援の方法を理解している。 ・老化に伴う様々な障害が分かる。	学習プリント、演習ワークシート、実習日誌、レポート
7月	自立支援と介護の高齢者福祉の現状と課題	自立支援と介護	老化に伴う障害について考える。施設見学 施設実習3(障害者関連施設)	・障害とは何かを疑似体験を通じて具体的に考へる。 ・自立支援と介護について考へる。	14時間	講義 演習 見学 実習	・老化に伴う障害について関心をもてることができる。	・老化に伴う社会的支援を考へることができる。	・演習での適切な援助ができる。	・老化に伴う様々な障害が分かる。	プリントワークシート、VTR視聴録レポート
9月		高齢者の権利	高齢者の権利について理解する。	・人権を大切にすることを考へる。	8時間	事例研究 講義	・人権尊重の意識をもち取りつむことができる。	・高齢者の権利を考へることができる。	・人権の尊重の重要性をこころに記すことができる。	・人権を大切にする会について分かる。	学習プリント、ワークシート
10月		福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義 グループ学習	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
11月	福祉の現状と課題	福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
12月		福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
1月		福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
2月	福祉の現状と課題	福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
3月		福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント
4月		福祉の現状と課題	高齢社会における福祉の現状と課題について理解する。	・高齢者福祉の理念について理解し、家族や地域及び社会の役割を考へる。	6時間	講義	・諸外国の福祉について関心をもてることができる。	・介護の背景を理解することができる。	・福祉の現状と課題について発表することができる。	・今後の福祉のあり方について考へることができる。	学習プリント

### 3 学校設定教科「総合福祉」における福祉教育

#### (1) 学校設定科目「福祉基礎」目標

現代社会を取り巻く、様々な福祉に関する基礎的な知識を習得させ、時代に対応した福祉社会に参加できる力と能力を育成する。

#### (2) 学校設定科目「福祉基礎」の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
福祉基礎	社会福祉について関心をもち、現在の「福祉」全般に対し、自らが主体的に関わっていくための実践的な態度を身に付けている。	日常生活における様々な事例を知り、考えることで自らが福祉活動にどのようにかかわっていくべきかを考え、創意工夫する能力を身に付けている。	様々な事例を通じて、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付け、実習・研究等で考察した過程や結果を適切に処理するとともに、その成果を表現する。	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の理念と意義、役割を理解している。

#### (3) 単元名 「ベッドメイキング・体位交換・車いす操作法」

#### (4) 単元目標

- ア 快適な就寝環境の整備の重要性を理解し、シーツ交換、シーツをたたむことができる。
- イ 体位交換の利点を理解し、要介護者の安全に配慮しながら移動の介護を行うことができる。
- ウ 安全に配慮し、車いすを操作することができる。
- エ 車いすに乗ること、押すことの経験を踏まえ、要介護者の立場を考え、安心できる車いす操作を行うことができる。

#### (5) 単元の指導計画（全10時間 本時は1. 2校時）

指導内容	学習内容	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ベッドメイキング 体位交換・車いす移乗 (2時間) 本時	①シーツ交換 ・シーツのたたみ方 ・シーツ交換の仕方 ②ベッド上での体位交換 ・上方移動 ・水平移動 ・仰臥位から側臥位へ ・仰臥位から端座位へ ③体位交換の利点 ・ベッドから車いすへの移乗	・要介護者の立場に立ち、快適な就寝環境の重要性に関心をもつことができる。	・要介護者の心理的立場に立ってシーツ交換ができる。 ・安全に配慮した移動援助ができる。	・シーツ交換時、三角コーナー作りに注意してしわを作らずに交換ができる。 ・要介護者の立場に立ちスムーズな体位交換ができる。 ・要介護者に負担をかけずに車いすへの移乗ができる。	・シーツ交換の作業手順は次の作業に関連していることが理解できる。 ・体位交換が、さまざまな利点を持っていることを理解する。
車いすの操作法について① (2時間)	①「車いす検定」 ・車いすの各部の名称 ・開閉の方法 ・直線・曲線の自走 ・坂道の登り方、降り方	・車いすの特徴に関心をもち、安全に気を付けて操作する態度を身に付ける。	・利用者の立場に立って、操作、進行などを考え、判断することができる。	・車いす操作の技術を理解し、操作することができる。	・車いす本体の安全な操作法、及び要介護者を考えた、安心できる操作法を理解する。
車いすの操作法について② (2時間)	①「車いす検定」 ・段差の超え方、降り方 ・砂利道での操作法 ・階段の上がり方、下り方	・協力者とともに安全に気を付けて操作する態度を身に付ける。	・利用者の恐怖感を知った上で適切な操作方法を考え、判断することができる。	・ゆっくりと前輪を上げたり、降ろしたりする技術を身に付ける。	・車いすの操作法、操作上の注意点、利用者を考え、配慮すべきことを理解する。
まとめ① (2時間)	①まとめ ・車いす検定のまとめ ・押した立場、乗った立場で感じたことをプリントに記入する。	・自分の経験を細部にわたり、書き表すことができる。	・車いすに乗った経験からどのような介助が必要かを考えることができる。	・自分の経験を踏まえて適切に介助することができる。	・地域、利用者、介助者の多くの面からの車いす操作の留意点を理解する。
まとめ② (2時間)	①まとめ ・新聞記事「車いす」学習プリント ・感想	・この単元について理解したこと、感じたことなどを書き表すことができる。	・町で見かける車いす利用者の方の心情を判断し、その解決法を考える。	・学習に対する思考を深め本単元の内容をまとめることができる。	・車いすの種類、機能について理解する。

(6) 題材名 「ベッドメイキング・体位交換・車いす移乗」

(7) 本時の指導目標

- ア 快適な寝床の整備の大切さを理解し、シーツ交換、シーツをたたむことができる。
- イ 2人一組で協力しながら、手際よくベッドメイキングを行うことができる。
- ウ 体位交換の利点を理解する。
- エ 要介護者、介護者ができるだけ負担を感じることなく、安全に移動を行うことができる。
- オ 安全に十分配慮し、車いす（ポータブルトイレ）への移乗ができる。

(8) 本時の指導計画（評価基準の記号：○関心・意欲・態度 □思考・判断 ◎技能・表現 ▲知識・理解）

区分	指導内容	学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入 10分	本時の学習内容 と目標の説明	本時の学習内容を理解する。	本時の内容を確認させ、本時への学習目標を持たせる。	本時の目標を確認する。 (○)
展開 40分	・シーツのたたみ方	・紙を用いてシーツのたたみ方の手順を理解する。 ・2人一組で、次の交換時に手際よく行えることを踏まえて、シーツをたたむことができる。	・「表、裏」「上、下」をはっきりさせ作業を行えるよう、工夫させる。 ・繰り返しの練習で、たたむ手順を確実に身に付けさせる。 ・リネン類の取り扱いに注意させる。 ・交換時に手間取らないように使用手順にそって整理保管することを理解させる。	・2人一組で手際よく丁寧にたたむことができる。(◎▲) ・交換時に手間取らないために使用手順にそってたたむことができる。(□◎)
	・シーツ交換の仕方	・2人で協力して、手際よく、シーツを交換することができる。	・シーツの三角コーナーは、シーツが崩れることを防ぐことを理解させ、褥瘡予防のため、シーツにしわを作らないことを知らせる。 ・介護者は、移動するとき、ベッドの足元を通るように配慮させる。	・三角コーナーをしっかりとつくり、シーツが崩れないように交換することができる。(◎▲)
展開 40分	・ベッド上での体位交換	・ベッドの上での上方移動と水平移動を学ぶ。 ・仰臥位（ぎょうがい）から側臥位（そくがい）への移動方法を知る。 ・仰臥位から端座位への移動方法を理解する。 ・ベッド上での移動が、さまざまな利点をもっていることを理解する。	・動作をはじめるときは、要介護者に声をかけ、確認と協力を促すよう配慮させる。 ・要介護者に振動を与えないように注意する。 ・手順にそって、できるだけ手早く行う。 ・介護者は、移動するとき、ベッドの足元を通ることを確認させる。 ・要介護者がベッドから落ちることのないように介護者の方に倒すように助言する。 ☆「移動の利点」安静・休息を重視して、同一姿勢で長時間臥床していると、 <u>関節の拘縮</u> や <u>筋肉の萎縮</u> をまねき、 <u>手足が変形</u> してくる。また <u>血液の循環が悪くなり</u> 、 <u>褥瘡（じょくそう）の原因</u> にもなる。姿勢を変えることで要介護者の苦痛をやわらげることができる。	・ベッド上での移動が、さまざまな利点をもっていることを理解することができる。(□▲) ・実際に体験することで移動の大変さを知り、援助に対する技術を身に付けている。(○◎) ・要介護者の立場に立った、移動の違いを身に付けることができる。(□◎)
	・ベッドから車いすへの移乗	・仰臥位から端座位への移動への援助方法を理解する。 ・ベッドから車いすへの移乗について知る。	・ベッドは、車いすのシートと同じ高さにすることを理解させる。 ・車いすは、ベッドに対してななめ（30～40度）にするよう助言する。 ・車いすはブレーキをかけ、フットレストを上げておくことを理解する。	・ベッドと車いす操作における注意点が理解できているかの確認を行う。(▲◎)
まとめ 10分	・まとめ	「まとめプリント」への記入を行う。	・学習で気付いたことや、身に付けた技能について、できるだけたくさん書くことができるように指導する。	・学習に対する思考を深め本時の内容をまとめることができる。(○□)

(9) まとめ

この単元では、常に要介護者の立場を意識し、快適な就寝環境づくりのために、介護者はどのような知識・技術を身に付け、工夫を行うかが重要である。また、訪問介護員養成研修をすでに受講した生徒にとっては補習的内容になり、これから受講する生徒にとっては予習的内容にもなるため、「なぜシーツ交換は手際よく行わなければならないのか」「車いす操作での声かけはなぜ重要なのか」など、一つ一つの動作の「意味」を正しく理解させることも重要になる。学校設定科目「福祉基礎」は設置時と比べ、学校の様子、生徒の実態、学校に対する保護者の期待も大きく変化してきている。今後は学校設定科目の特色を生かし、学校を取りまく状況の変化を的確に判断するとともに、生徒の学習目標に配慮した指導内容の構成を図る必要がある。



## 4 福祉に関する体験的な学習の在り方

### (1) 高校における体験的な学習の意味

はじめに、本研究では校内における体験的な学習は「演習」とし、学校外の施設等を訪問する場合は「実習」とした。また、校内において「お招き会」など学校外の人との交流は「実習」とし、生徒同士の交流は「演習」として扱うこととした。

福祉に関する体験的な学習のねらいは、演習・実習を通して、福祉について考えを深め、共生社会を創造する力を育てることが大切である。また、基礎的・基本的な知識と技術の習得をめざして、家庭看護や高齢者介護の充実を図る能力と態度を育てることが必要であり、高齢者の自己決定に基づく自立生活支援を図る介護の在り方について認識を深めることが重要である。そこで、社会の一員としての自分の役割やかかわりを学び、課題発見や課題解決の方法・評価・反省を今後の生活に生かそうとする意欲と力を育てることが求められる。

学校外における実習については、生徒に社会福祉施設等における実習の意義を十分に理解させることが大切である。また、施設に対しては、学校側の実習についての考えを十分に伝え、共通理解と連携を図る体制をつくる必要がある。さらに、実習に当たっての指導は、実習先との事前打ち合わせの内容を十分に踏まえ、実習時だけでなく事前指導・実習中の指導・事後指導を含め、適切に行う必要がある。

### (2) 体験的な学習活動の現状と課題

	校内における体験的な学習	校外における体験的な学習
現状	<p>教科・科目として各教科担当が行う場合（家庭科「家庭看護・福祉」など）や学校設定科目や総合的な学習の時間（教科総合「ボランティア」など）として教科を越えた教諭が担当している。学習内容や授業計画は、各教諭の研修や経験を通して得た知識、教科書、参考図書を活用して資料を作成している。さらに、市民講師等の協力で実施している学習もある。</p>	<p>校外における実習は、特色ある教育内容として現在多くの中学校、高等学校で行われている。その期間としては、「午前中2時間」「1日」「3日」「1週間」「週1回を数回にわたる」ものなど、学校によって様々である。生徒数も1名から30名までと多様である。</p>
課題	<p>①体験的な学習の視点は、学習を通してどのような福祉マインドを育てたいか等、学校としての共通理解を持つことが必要である。また、教科としてのかかわり、インターンシップ、総合的な学習の時間、学校家庭クラブ活動等、いろいろな科目との違いを表すこと。さらに、福祉の分野の知識や技術をどこまで扱うかを検討すること。</p> <p>②福祉の演習の教材開発が必要である。</p> <p>③学校や教諭の役割として、ボランティアコーディネーターとしての役割を担うことが求められる。学校内では、体験的な学習内容について教科間の連絡・調整や生徒が校外のボランティアを希望した場合などの相談対応などがある。学校外では学校運営連絡協議会、地域懇談会、自治会等地域との連携・協力を図る担当者としての役割がある。</p> <p>④市民講師については、演習内容による講師要件一のような資格をもっている人かなど講師の人選を考える必要がある。また、謝礼については校内予算や助成金（研究指定校、ボランティア協力校など）の活用がある。さらに、市民講師との打ち合わせの方法・時間の調整も授業時間外に必要なことになる。</p>	<p>体験実習が盛んに行われるようになった現在、施設では、中学校、高校から実習の依頼が多数寄せられている。そのため、ある区では「実習」に当たり、「体験学習申請書」の提出を求め、状況の確認、整理を行うことになった。生徒たちにとって有意義である「実習」を行うために、次の点に留意する必要がある。</p> <p>①実習施設との十分なコミュニケーションの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側のねらいを十分に伝えないことで、学校側と実習施設との間で、微妙な温度差が発生する可能性がある。</li> </ul> <p>②十分な事前学習の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校によっては、十分な事前学習をせずに、実習に参加させてしまい、実習生の勝手な行動が施設に迷惑をかけている場合がある。</li> </ul> <p>③明確な目的意識をもたせる必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この「実習」を何のために行うか、一人一人の実習生自身が明確な目的意識をもつ必要がある。</li> </ul> <p>④進路希望を意識した実習の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の進路希望である施設での「実習」を通じ、この職業が自分に合っているものなのかを考えさせる。</li> </ul>



留意事項	①演習・実習による事故などが発生したときのために、危機管理についての体制を整備する。
	②演習・実習ともに授業中の事故に対する注意が必要で、事前にできる対策として、賠償責任保険等の対人・対物・自損を含めた保険の加入は必ず必要である。加入をしていない場合は受入れを断られる場合がある。
	③福祉関連の情報（市民講師の紹介、助成金の情報、物品貸出し情報など）を得るには、学校地域の社会福祉協議会（社協）、ボランティアセンター、市・区役所、生活センター、市民講師のネットワーク、他校との連携・情報交換、教員研修の機会がある。

### (3) 体験的な学習活動の実施に向けて

体験的な学習活動を校内・校外において円滑に実施するためには、授業担当者が教科間あるいは地域と学校をつなぐコーディネーターとしての機能を担うことが必要になる。ボランティア活動を例に上げると、コーディネーターとしての機能は、「知らせる（情報提供機能）」「調べる（調査・研究機能）」「支える（相談援助機能）」「育てる（養成・教育機能）」「つなぐ（需給調整機能）」の五つがある（参考：「ボランティア・コーディネーター」巡静一編著／中央法規出版）。

そこで、それぞれの機能を福祉教育における体験的な学習活動の中でとらえると、「知らせる（情報提供機能）」では、体験的な学習活動の実施に伴う情報提供や福祉に関する情報提供を行い、校内や校外に対して体験的な学習活動の実施に伴う情報を提供する。「調べる（調査・研究機能）」では、生徒に問題意識をもたせながら調査・研究を促す年間授業計画及び単元の授業内容を設定する。「支える（相談援助機能）」では、生徒への相談援助を行い科目における学習活動を通じて、生徒一人一人の進路実現を目指す指導を行う。「育てる（養成・教育機能）」では、校内における演習や校外における実習等を通して知識や技術の習得とともに思いやりの心を育て、共生社会を創造する態度を育成する。「つなぐ（需給調整機能）」では、生徒の実態を把握するとともに生徒の意欲を引出し、学校外の関連施設との連携・協力を図る。これら五つの機能を円滑に行うことにより、事前・事後指導を踏まえた効果的な講義・演習・実習の展開が実施可能になる。担当教諭はコーディネーターとして五つの役割を十分理解した上で、体験的な学習活動を実施することが必要である。

表1 演習の種類(例)

○病気予防と家庭看護の基礎 病室の環境整備（室温・換気・照明他）、ベットメークキング、体温、血圧測定、応急手当て、救命救急
○加齢や障害に伴う心身の変化 シニア体験、点字、手話、車椅子体験
○日常生活の行動 体位交換、移動、移乗の介助、食事・排泄・着替えの介助、清拭、口腔ケア、洗髪、手浴、足浴、入浴
○レクリエーション リハビリを楽しむ（会話、歌、音読、楽器演奏、散歩、調理、ゲーム、軽い運動など）、レクリエーションで必要な小物製作（お手玉など）

表2 実習における事前指導の例

①遅刻をしない。
②実習先では、きちんとあいさつをする。
③実習先についたら出勤簿に押印する。
④身だしなみに気を付け、服装はジャージ等を着用する。
⑤実習先で知り得た情報は外部で話さない、利用者等のプライバシーを守る。
⑥安全に配慮した行動をとる。
⑦利用者や施設の職員の方々に迷惑をかけない。
⑧分からないことや迷った時は、遠慮なく職員に相談する。
⑨実習日誌を記録し、レポートを提出する。

#### IV まとめ

本研究のまとめとして、各科目の生徒にアンケートを実施した。「科目選択の理由」では「進路に役立つ」と回答した者は「社会福祉基礎」(福祉)84.7%、「家庭看護・福祉」(家庭)57.8%、「福祉基礎」(学校設定科目)55.6%であり、いずれも生徒の目的意識は高いことが分かる。しかし、いずれの科目においても、「他に選択したいものがなかったから」と答えている生徒が若干名おり、特に「福祉基礎」においては18.5%の生徒が「他に選みたいものがなかった」と答えている。この傾向は他の「科目選択の目的との一致度」「学習内容における生活での活用経験」においても類似した傾向が見られる。「科目選択した目的との一致度」においてはどの科目も約9割の生徒が「充分あっている、ほぼあっている」と答えている。「役に立つと思われた学習内容」は、授業の進度状況や年間の指導計画が異なることもあり比較検討は難しいが、生徒たちは授業で役に立つ内容を挙げている。特に「校内外の演習・実習に関わる学習活動」と答えた生徒の割合が高く、福祉教育における体験的な学習の意義は大きい。

「学習内容における生活での活用経験」では「ある」「今後に生かしていきたい」と答えた生徒が「社会福祉基礎」「家庭看護・福祉」では9割以上であった。いずれの科目も目的意識をもたずに選択した生徒を含めて、いかに興味・関心を高める授業をするかが今後の課題であり、授業内容の工夫や生徒のニーズに合った科目内容の開発などカリキュラム編成上の課題が挙げられる。

また、本研究全体を通じて教科の学習内容への課題が明らかになった。教科「福祉」では教科の科目内容との関連が、教科「家庭」の「家庭看護・福祉」では、「家庭総合」「発達と保育」の科目との指導内容の関連だけでなく、高齢者福祉を中心とした領域に限られており、今後において科目内容の在り方を人の一生と関連した家庭看護・福祉の内容に検討していくことが望まれる。学校の実態にあわせて独自に設定する学校設定教科・科目では、福祉に関わる教科・科目との領域を精査し、特色ある教科・科目の指導目標に基づいた学習内容を実施する必要がある。「共生社会を創造する福祉教育の在り方」を主題とした本年度は、福祉分科会として初めての研究開発であったため、現状把握を行うことを中心としたが、東京都の福祉教育の現状と課題を明らかにすることにより、教科「福祉」、教科「家庭」、学校設定教科・科目における体験的な学習を含めた福祉教育の在り方と今後の方向性を示すことができた。来年度は、福祉教育の在り方と今後の方向性を共生社会の実現を考える上でも、さらに具体的な研究を通して深化させていくことが必要である。

